

石原国土交通大臣 定例会見発言要旨（外環関係分・速報）

平成15年10月31日（金） 10：30～11：00頃

（記者）

最近配布のリーフレットに「青梅街道ICは設置せず、ゼロインターで」とあるが、その真意は。

（以下、答）

- ・ 外環は、私の選挙区も通過するが、東京区部の通過交通処理を考えるという広域的視点と地域環境や利便など周辺住民に喜ばれる道路であるべきとの地域の視点の両方から、バランスのとれた議論が必要。
- ・ 外環を、都知事と扇前大臣が協力して進めていこうと合意されたのは、東京という大きな街の交通処理については、環状道路の整備が必要という点で一致されたものであって、画期的なことであった。
- ・ 先日、タイの運輸大臣と話をしたときに、ここ10年で環状道路の整備が75%終わり、渋滞が緩和したということを聞いた。私からは、日本の場合20数%しか整備されていないと話したが、羽田・成田から都心に行くのは大変ですねといわれた。
- ・ 私は、東京にとっての外環の必要性に立ち戻って考え、都知事と前大臣の決断を一步でも二歩でも進めたい。
- ・ 外環の整備に当たっては、「スピード」という視点も必要である。行革大臣を行っていたときに、民間からの出向者と一緒に仕事をしたが、皆口をそろえて行政はスピード感が足りないといっていた。したがって、外環の構造の検討に当たっても、「いかに早く整備するか」ということを一つの重要な視点として織り込むべきと考えている。用地取得が絡まない大深度地下を基本としたのも、そのため。
- ・ 早くつくるためには、やはりゼロ・インターをベースにして、真に必要で実行可能なICがあるかどうかについて、この先、十分議論を尽くすことが必要。
- ・ その際、青梅街道ICは、地元でも大きな議論となっており、そのある・なしで、整備のスピードが5年以上違ってくると思われる。
- ・ 私としては、「早く整備」するための一つの知恵として、当面はICをつくらないことを基本として、住民の意見を聞いていくべきと思っている。
- ・ これまでも、外環については、地域の意見を把握するために、周辺道路の交通量の変化、地域分断などの生活への影響、環境への影響など、さまざまな観点から、ICのある・なしを判断いただく材料を既に提供させていただいている。そんな中、私は、整備

のスピードという観点から新しい問題提起をさせていただいた。東京都、練馬区長、杉並区長、そして地域に暮らしている皆様方と、その観点の重要性も踏まえて、これから精力的に議論を進めさせていただきたいと考えている。

(質疑応答)

問 その他のICについても作らないという考えか？

答 スピードを考えると、既存高速とのJCT周辺を中心に整備していくべきと考える。

問 青梅街道ICについては、練馬区が賛成、また3月の「方針」では地元の意向を聞きながらとなっている。大臣はこれを更に進めてゼロという考えで協議を進めていくという考えか。

答 やはりスピードだと考える。また1つ作ると概算だが1千億円はかかる。作りたいという人がいることは十分承知しているが、スピードとコスト面を考えていきたい。私としては、都知事と前大臣の合意を一步進めたい。

問 ぶしつけな問だが、選挙対策ではないと理解して良いか。

答 以前から主張していることで、選挙対策ではない。

問 外環については賛否もあり、協議会等で議論されている中、今回の大臣発言によって、住民の反発もあるのではないかと考えるが。

答 これまで大泉のところで凍結されていた。私の地元でも賛成・反対、多くの声を聞いている。しかし、東京全体、また地域がどうあるべきか、この2つの視点を考えるとバランスを考えて整備するべきと考える。そこで、扇前大臣・石原知事の合意から一步踏み込んで発言させていただいたとご理解いただきたい。

問 意見のまとめ方は。

答 外環調査事務所もあるし、自分の区内でも話をする場がある。また2区にまたがっており、練馬区長と協議をする場もある。そういったところで、地元の方々と話をしていきたい。

私が作りましようと言ったからできるという簡単なものではないかも知れない。関係機関や地方の方々と十分にお話しをしていかなければならない。ただ、大臣として、前大臣と知事の合意を1歩でも2歩でも進める必要があると考えている。

問 現在、PI協議会が設置されており、建設の是非も含めて議論となっているが。

答 それはもちろん賛否あるし、私の支援者にも反対の方はいる。そういう方にも都民として、大臣として、整備の必要性を訴えていきたい。

(以上)